

郷土の学府



～第2学年大学出張講義特集～

12月17日に実施した大学出張講義を受講した皆さんの感想を紹介します。(編集の都合で一部省略したり、変更したりしています。ご了承ください。)

「第3学年0学期」を迎えるにあたって、10年、20年後の自分がどんな形で社会に関わり、貢献していくかということに思いを馳せつつ、そのために大学で何を学ぶか、どのような大学生活をおくるかということを具体的に考えていきましょう。

大学に合格するための学力をつけることはもちろん必要不可欠ですが、何よりもこの時期に自分の人生における「志」を抱くことが最も重要です。

【経済学・経営学】「シェアリングエコノミーについて考えよう」

石原 敬子先生(兵庫大学)

○私は、もともと経済や経営はお金儲けとか需要供給とかそういうことを勉強すると思っていたけれど、実際はもっと深くまで一人一人のことについて考えていく学問なんだなと感じました。多くの人ののおかげで1人の人間の生活がなりたっている。そういうことはわかっていながらも普段は気にして生活はしていないし、自分たちはまだ働いてもないので関与すらしていないのかなと思っていたけれど、実際は物を買うこと自体も重要な事なんだなと改めて思いました。手軽にできるアプリやネットから事業をするのもその1つで、私たちの周りには経済に関与することがたくさんあるんだなと感じました。また、これからはずっと経済は関係してくるので、そういうことを意識しながら生活していこうと思いました。



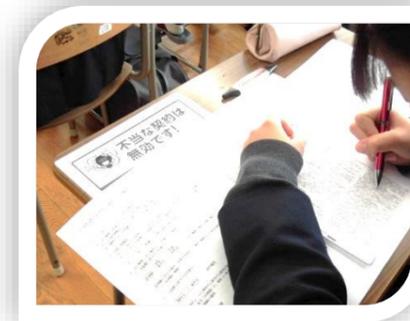
○今日の出張講座では、経済学について詳しく知ることができてよかったです。シェアリングエコノミーが近年増えている理由やフードシェアリング、スキルシェアの具体例などいろんな話を聞くことができ、面白かったです。シェアリングエコノミーは「お互い様」の気持ちや「助け合い」の精神が大切だということ、ビジネスとは、人々の「あったらいいな」の気持ちに答えることであり、需要があって初めて成功するということが印象的に残りました。

○経済学部といってもさまざまな分野があって、そのどれもが経済に関して多大な貢献をしてきたことがわかりました。今回話して下さったシェアリングエコノミーは助け合いの精神のもと、経済を円滑に回していくためのもので、それによって貧困地域の子供達などに食べ物が行き渡り、また、食品ロスの減少にもつながる可能性を見出すことができるのだとわかりました。今後こういった事に関心をよせて経済の知識を少しでも吸収していきたいです。

【法学】「消費者契約法について」住田 英穂先生(甲南大学)

○コロナの関係で、法学はリモートでの講義を受けました。日常生活における契約と消費者契約法についての講義でした。設例を元に、「この場合はこの条文のここが該当するから、この法律が適応される」といったように一つ一つ噛み砕いて分かりやすく教えて下さいました。パズルの様に、設例と法を照らし合わせて、正しく当てはめていく作業は、楽しかったです。法学部生が使っている法律の辞書が、私が普段使っているデイリー六法ではなく、ポケット六法だということに少し驚きました。今私が使っている辞書は民法改正前の物なので、買い換えるときはポケット六法にしようと思いました。いただいた資料を見ると、市役所や県庁に進んだ方が13人しかいらっしゃらなかったの、本当に狭き門なんだなと改めて痛感しました。

○今回の出張講義でたくさんのことを学びました。まず、僕は政治経済を選択していますが、その時に習う法律は名前だけでその内容を読むようなことはしていませんでした。だから、今回の出張講義で、消費者契約法の中身を詳しく知ることと、その条文を設例に当てはめて考えるということはとても難しいと感じました。そんなことを大学生になったらしなければいけないと思うと、これからは、もっと詳しく法律と向き合っていかなければいけないなと思いました。

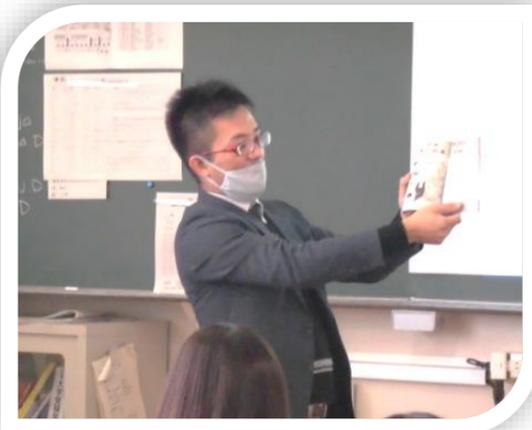


【外国語学】「外国語を話すということ」

近藤 辰弥先生(神戸市外国語大学)

○世界には何ヶ国語の言語があるのかと言う質問に、私は 200 ヶ国語ぐらいかなと思っていました。でも本当は 6,000~7,000 ヶ国語もの言語があると聞いてとても驚きました。

○今まで外国語学は漠然と「外国語を学ぶ」ということだと思っていましたが、今日の講座を通して外国語学とはその国の言葉だけではなく、風習や社会情勢、成り立ちや伝統など様々なことを含めて学ぶことだと知りました。またアニメや漫画の翻訳の例では日本とは文化が異なることを踏まえた上で、その国にあった訳し方、表現の仕方を選ばないといけないことに驚きました。文法や単語を知っていれば日本語を外国語に変換することはできるけれど、その国の文化的背景を知っていないとニーズに合った翻訳や表現が出来ないので、外国の文化を学ぶことはコミュニケーションを取る上でも重要だと思いました。



○文法などスキルのことではなく、文化的な面での海外と日本の違いを学びました。漫画を例に話し合いなどを行いながらの講義だったので、わかりやすく楽しかったです。私自身、大学では外国語学を文学などと並行しながら学べる学科を選びたかったので、その参考になった気がします。また、最後に外国語学を選択している大学生の進路先、就職先を教えてください、外国語学をとれば将来の選択肢が広がることもわかり、今まで以上にやる気が出ました。大学についても将来の職業についても、もう少し視野を広げているような分野を調べて考えてみようと思いました。

【美術・造形・デザイン】「SDG,s (エス・ディー・ジーズ)とデザイン」

福島 美和先生(神戸芸術工科大学)

○私たちが日々不便なく暮らしているのは、たくさんのアイデアとデザインのおかげであると分かりました。SDGsの海の環境問題では、人間が捨てたゴミを生物が食べてしまったことを聞いたり亀の鼻にストローが刺さっている写真などを見たりして驚きました。また、マイストローやエコバックを普段から持ち歩くことも、世界や日本を守るための第一歩なのだを知ることができました。デザインすることは楽しいけれど、難しい部分もあるのだと分かりました。よく目にするユニバーサルデザインなどについても、新しく知ることが沢山ありました。とても勉強になりました！



○今日の講座では、環境と SDGs をというテーマの話をしていただきました。私は SDGs という言葉を今日初めて聞きました。SDGs は「持続可能な開発目標」のことで、近年とても重要視されているそうです。講師の先生が SDGs を取り上げた雑誌を持ってきてくださったり、環境に配慮したビニール袋や紙ストローなどの紹介をしてくださったり、具体的にどのようなことを目標にして活動しているのかがよく分かりました。

そして、その内容とデザインがどう絡んでくるのかをジャンプの詰め替え容器を用いて教えてくださいました。

デザイナーの仕事はイラストなどのビジュアルだけではなく、ユニバーサルデザインのようなあらゆる消費者にとって使い勝手のいい商品を開発することも仕事になることを初めて知り、ジャンルごとのデザインについて調べてみればたくさんの仕事があると気がつきました。また、大学ではこのようなことを毎日学習するのかなと思うと、とても羨ましいので、進路に向けて今、自分が頑張れるだけ頑張ろうと思いました。



【心理学】「対人関係とコミュニケーションの心理学」

板山 昂先生(関西国際大学)

○心理学を学んで、新しく知ったことやこれからの生活に活かせることがたくさんありました。人は生きていたら衝突することもあるし、その時にどのような対応をするかで、相手に対する気持ちも変わってくると思いました。人に注意する時も、人格まで否定するのではなく、行動だけを否定することでいい人間関係を築けるんだなあと思いました。この講義を聴いて、楽しく、また、人として成長できた気がします。進路の選択として心理学も候補に考えたいなあとも思いました。



○今回の講座を受ける前までは、心理学といえばカウンセラーなど、就職先が限られていると思っていましたが、講座を受けて、物を売る仕事、宣伝することなどに心理学は使われていて、とても身近なものなので、どこに就職しても役に立つ必要不可欠なものだと思いました。講座内容で特に印象に残ったことは、心理テストをしたことです。結果を聞くと、考えたら当たり前に分かることなのに、自分の思い込みで答えることができませんでした。思い込みや先入観って怖いなと強く感じました。普段は受けることができない内容の授業だったので興味深く、充実した時間を過ごすことが出来ました。

○対人関係での葛藤(喧嘩)は、「①あっても仕方ないと思う。」「②なるべく避けなければいけない。」の二択では①を選んだ人のほうが②を選んだ人に比べて結婚したときの幸福度が高いことを知りました。①の場合、対人関係での葛藤をお互いの成長につながったり相手のことを知るきっかけになったりすると考えるため、より良い関係を築いていくことができ、②の場合は片方が我慢し続ける関係が築かれるので良くないそうです。私は②を選んでいたので①の考え方に近づけるよう心がけていきたいと思います。

「私はこれだけ〇〇したから、あの人も〇〇してくれる。」というのは一方的な片思いで、相手から見返りがないうことを期待はずれだと思てはいけないことがよくわかりました。もちろん、相手からかえってきたらそれは素敵なことだと思えるようにしたいです。

今回の講義を受けて、前よりも心理学についてもっと知りたい、学びたいと思うことができました。だから、頑張って勉強して大学で学べるようにしたいです！

【体育・健康スポーツ】「トレーニングと身体の不思議」

中西 康人先生(大阪産業大学)



○今日の大学出張講座では、トレーニングには種類があって、普通はこうするといつとみんなが思っているものも実は間違っていて筋肉を伸ばしてしまっていること、超回復のことなど難しい話が多かったけれど、効果的なトレーニングの頻度や種類などがよく分かったし、新しい発見がたくさんありました。

○トレーニングの内容で、普段あまりしっかりトレーニングをしているわけではないので、どれぐらいの頻度でどれぐらいの量が適切なのかなどを知ることができて良かったです。後半は、実際に体を動かす内容で、体が柔らかくなるトレーニングを体験しました。少しキツかったけれど、自分でもわかるくらいすごく柔らかくなったのでびっくりしました。正しいトレーニングの方法や、体を柔らかくする方法などがわかって面白かったです。



○一言で筋力トレーニングといっても静的の動的二種類あることを初めて知った。他にも外側の筋肉と内側の筋肉をバランスよく鍛えることが大切だということ、運動前にストレッチをする場合軽い負荷をかけながらしないと筋肉が緩んでしまって怪我につながることを学んだ。

【教育学】「学校の先生になろう！」内田 祐貴先生(神戸松蔭女子学院大学)

○一番印象に残ったのは、最後のアイマスク体験です。なんで急にアイマスク体験をやるのかと疑問に思いましたが、話を聞いてとても納得しました。それは、アイマスクをしているのが生徒、それを導くのが先生ということです。まだ何も知らない生徒は暗闇の中、さまよっています。そこに先生が生きていく上で必要なことを教えていきます。

○まず、学校の種類と先生になるためにはどうすればいいのかということ学びました。特に小学生の先生について詳しく学びました。授業は教科書やマニュアル+αのことをしなければならず、αの部分がとても難しく、とても大切だということ学びました。αの中でも導入はとても重要で、導入次第でその授業が児童たちの記憶に残るものになるかどうかが決まるんだなと思いました。一見簡単そうに見えるけど、いざ、考えてみるとなるととても難しく、また、授業の評価基準を決めるのも意外と難しく、先生ってとても大変だなと思いました。また、授業を初めて聴く児童の例えとして、ブライアント歩行をしました。視界が遮られると不安や怖さがあった反面、パートナーの補助があるだけでとても安心感がありました。こうした体験を通して児童だった時の気持ちを思い出すことがとても大切なんだなと思いました。とても貴重な時間になりました。

○今回では小学生を相手として教える時に、どうするかを考えました。小学6年生に初めて発電についての授業をする時、どうしたら興味を持ってくれるのか、どうしたら興味を持ってくれたかを判断できるのか。また、教師と生徒はいわば、手を持って教える人と目隠しして歩いている人のようなもの。それを理解してどうしたらいいのかを考えないといけないということ学びました。面白くない事は忘れてしまうもの。私も小学生の頃の授業はほとんど覚えていません。でも、少しでも印象づけることのできる楽しい授業にするための工夫がとても大事で、先生側からするとすごく難しいことでもあるなと思いました。遊びのような実験を行った授業の結果を成績として使う時、今回の講義では、身近にある静電気と反応してくっこうとするものを何個見つけられたかで判断すること、全員がROUND-1をクリアできるようにヒントを提供すること、これらのことも大事だと学びました。今回の講演で、子どもに教える時に大事なことや、教師としてやるべき事を学べたかなとも思います。



【公務員】「公務員対策講座」

山中 治先生(高校生援護センター(株キッズコーポレーション))

○公務員のメリット・デメリットをたくさん知りました。でも、メリットやデメリットを気にしてやるのではなく、第一にサービスを提供する地域の方々のことを思う気持ちがないと公務員は務まらないと感じました。志望動機は別に大した理由じゃなくていい。どういう風に役に立てるかを伝えることが必要だと学びました。

○公務員になるためには様々な方法があることがわかりました。試験は夏休みが終わってすぐにあるところが多く、受験対策は今から始める必要があると言われました。内容は受ける試験によって違いますが、一番肝心な小論文や志望理由書の書き方を教えて頂きました。文は言葉と言葉の繋がりとされ、単語を書いてそこから連想される具体的な内容を書き、文に繋ぐことができました。詳しく公務員のことを学べたので、勉強になりました。



【看護学(専門学校)】「看護師になる方法」松木 あゆみ先生(関西看護専門学校)

○出張講座では学生さんならではのエピソードや看護師になるにはこういった選択肢があるというようなことなどを聞きました。コロナが流行っている中で、実際にオープンキャンパスに行くことのできない私からしてみればとても参考になる話ばかりでした。特に、先ほどの在学中の学生さんのエピソードは聞いてよかったなと思った内容でした。ある研修中の学生さんが不器用で、受け持ちの患者さんに上手く対応できないことがあったそうです。その学生さんはそれがきっかけで自分が受け持たない方がいいのではないかと、その患者さんに「私が受け持たない方がいいのではないかと」と直接聞いたそうです。しかし、その患者さんは学生さんのことを全く悪く思っておらず、むしろこのまま続けて欲しいと答えたそうです。その話を聞いて、私自身身をするにも焦ってしまい結局何もできなくなってしまうことが多く、この学生さんのようになりかねないなと前から悩んでいたの、そんな学生さんの思いを理解してくださる患者さんもいるんだと思って安心しました。今日講義をしてくださった松木先生にはとても感謝しています。今日聴いたことを参考にして今後の進路もしっかり考えていきたいと思えます。

○実際に専門学校でこんな事を学んで実践したりしているという話も聞いて早く進学したいと思ひ、とても楽しく感じました。一つ一つ時間をかけて丁寧に教えてくださって分かりやすく、実際自分で脈を取る時も難しめの場所でも上手に説明して下さったので、すぐに脈を取ることができました。看護専門学校と大学の看護分野の違いや、どんなことを方針として行っているのかをそれぞれ説明して下さり、大学のことも専門学校のことも今までよりよく知ることができて、参考になりました。実際にパルスオキシメーターや聴診器を使い、自分たちの酸素量や心拍数も測りました。また、滅多に使う機会のない聴診器で心臓の音も聞け、楽しいだけでなくとても良い機会になりました。大学は4年だけれど専門学校は3年で授業の進度が速いと聴いたので、今から授業の後の復習もしっかりして専門学校での勉強に備えないといけないと思いました。まずは今できる勉強を頑張って専門学校に合格したいと思いました。



【看護学(大学)】「在宅看護の実際」安田温子先生(兵庫県立大学)

○今回の講座では在宅看護についてお話を聞きました。在宅看護の存在は知ってはいたけれど、詳しくは知らなくて正直興味もあまりありませんでした。でも、今回話を聞いて病院看護とはまた違ったやりがいとか患者さんとの関わり方があるということを知りました。特に患者さんとの関わり方は病院看護とは違い、1人の患者さんと深く長く関わり看ることができるというメリットがあります。1人1人と深く関わり理解し信頼し合うからこそできる看護のあり方があると思うし、もっともっと患者さんと向き合え、患者さんの満足する対応ができるんじゃないかなと思います。私は1人1人と精神面からも向き合い満足してもらえる看護師になりたいと思っているので、訪問看護師という選択もあると考えました。まだまだ知らない看護の世界があるので、もっともっと知りたいなと思っていました。

○私が気になっていた在宅看護についてのお話でした。在宅看護とは何か、どのようなことをしているのか、在宅治療のメリットなど、詳しく教えて下さいました。講師の先生は、元看護師の方だったので、その経験をまじえながら、お話しして下さったり、具体的な事例を挙げて下さったり、わかりやすい講座でした。私が一番心に残っているのは、「看護学は身近な人のために役立つ、私は看護学を学んでよかった」という言葉です。これを聞いて、さらに看護学を学びたいという気持ちが強くなりました。また、もっと進路についてしっかり考え、受験に向けて準備しなければいけないなと思いました。

○在宅看護について学びました。印象に残っているのは、認知症の方の事例です。最初はあまり自分のことをしゃべってくれず、心を開いてくれなかった患者さんが、毎日会っているうちにだんだんと喋ってくれるようになったという話でした。それは、きっと看護師さん達の人柄や努力があってこそだと思うし、絶対簡単にできることではないので、すごいなと思いました。



【理学療法・作業療法】「リハビリテーション～理学療法と作業療法の違い～」 坂口 雄哉先生(兵庫医療大学)



○今までも兵庫医療大学の web オープンキャンパスに参加して理学療法・作業療法についてはなんとなくわかっていたつもりだったけれど、今日の話聞いて、自分はほんの一部しかわかっていなかったんだなと思った。理学療法・作業療法は患者さんに対してリハビリを行うだけではなく、患者さんになる前の人に対して予防という形で活躍できることがわかった。科学的視点、専門知識、英語やコンピュータなどの知識、他の人を助けることに生きがいを感じる、対人関係をしっかりと持つこと、先生がおっしゃっていたこの5つのポイントを忘れないようにしたい。創造力とコミュニケーション能力はロボットに負けない人間のいいところであり、この2つを必要とする理学療法、作業療法はこれからもロボットに奪われることのない素敵な職業だ

ということがわかった。今回の講座を聞いて理学療法士になりたいという思いがさらに強くなった。これからもいろいろな大学のオープンキャンパスに積極的に参加するようにしたい。

○自分は理学療法士を志望していて、今までは作業療法士の仕事の内容については全く知りませんでした。でも、今日の講座でたくさんの事を学びました。理学療法士の仕事の内容についてはあらかじめ知っていましたが、作業療法士はお風呂に入るなどの生活の基本的な動作全般のリハビリをして、もとの生活を戻れるようにする仕事だと知り、とても魅力的だと感じました。また、AI に取られない仕事上位3位だという点でも作業療法に魅力を感じました。今回、自分が志望している学部のことだけではなく、似ている分野について学ぶことができ、とても勉強になりました。今後の進路に活かしていきたいです。

【診療放射線技師】「医療の現場で働く診療放射線技師のお仕事について」 伊藤 彰先生(神戸常盤大学)

○僕はこの出前講座を聞いて、医療の世界で働いていくことが非常に大変であることを改めて知りました。その職種に関する知識だけでなく、同じ場所で働いている人や患者さんなどとコミュニケーションをとらないといけないので、高度のコミュニケーション力を必要とし、患者さんが今どのような気持ちで、どんなことを言えば患者さんの心を和らげることができるのかを考えるなどといったことが必要であると学びました。僕が将来なりたい職業は臨床検査技師か臨床工学技士ですが、この機会に同じ現場で働く違う職業の人について詳しく知ることができて、医療への関心がより深まりました。



○今日の出張講座は神戸常盤大学の先生が来ていただきました。私は常盤大学の診療放射線学科に行きたいと思っているのですが、今年はコロナの影響でオープンキャンパスに行けなかったのが、実際に常盤大学の先生のお話を聞くことができよかったです。手のレントゲンを見せてもらって、正面で撮ったものとちょっと斜めに撮ったものを比べると、折れている部分が角度によって目立ったり、見えなかったりしていたのが印象的でした。診療放射線技師はその角度の工夫をしないとイケないので、撮る時に難しそうだと思います。今日の出張講座で診療放射線技師の仕事内容と神戸常盤大学の授業風景を見て、私も神戸常盤大学に行って診療放射線技師になりたいという思いが強くなりました。

【工学】「機械・自動車・建築・土木における熱流体工学と安全工学」 川端 信義先生(公立小松大学)

○今年はコロナの問題などもあり、ウイルスの広がり方、その時の換気の仕方などを自分たちで考えました。他にも水素自動車の燃え方の激しさなども勉強させてもらいました。とても面白く勉強ができて良かったです。

○教授は粒子についての研究をされていて、その話も少し教えて貰いました。工学の科目を選択した人は5割が大学院まで進学すると聞いたので、僕もその道に進むなら大学院に進むことを視野に入れようと思いました。また大学生は学年が上がると研究室に籠って自分の研究テーマを研究するという事も教えて貰いました。

○前回は小松大学の機械工学の話をお聞きしました。今回も同じ大学で、幅広い分野から講義して下さって良かったです。今コロナが流行っている中で、小松大学の学生さん達がいろいろ研究や調査していることを知りました。そのデータを見せてもらったのですが、全て驚かされるものばかりでした。



【情報工学】「情報工学部で学ぶハードウェア技術」 春木 直人先生(岡山県立大学)

○一番記憶に残っているのはロボットコンテストです。2017年度の映像を見せてもらって、発想やアイデアが詰まった作品が沢山あり、とても面白かったです。また、情報工学をするにあたって物理と数学は絶対できないといけないと講師の方が仰っていたのでしっかり勉強したいと思いました



○情報工学が様々な分野に関わっていることを知った。これからの時代、AI や進化したセンサーなどが当たり前になっていく中で、情報工学は大きく社会に貢献していくのではないかなと思った。また逆に、情報工学以外の分野もしっかり学ぶことが必要とされると感じた。

○今回の大学出張講座で情報工学は1つの独立したものというよりは世の中のあらゆるものをつながりを持って存在しているということがとてもよくわかったので、たくさんの情報や世の中で起こっていることに注意していきたいと思った。

【生命科学】「生命の神秘を探る～生命科学とは～」 山野ひとみ先生(倉敷芸術科学大学)

○最初に、生命科学は地球上に何億種といる生物の多様性の解明や保全を行うことがメインだと知りました。私はそれを聞いて、どんな活動が行われていてどんな研究がされているのだろうと想像しただけに興味がありました。次に、生物の学名について教えていただきました。普段は和名で呼んでいるので、見た途端「なんじゃこりゃ」と思いました。ただひたすらラテン語が並んでいて圧倒されました。学名を学んでいく中で面白い発見をしました。発見というか驚きというか、「ヌマムツ」という生物の学名にシーボルトの名前が入っていました。思わず「おお……」とつぶやいていました。その後も水中生物の繁殖行動について教えていただきました。繁殖行動は主に4種類あってどれも特徴的なものでした。最後に大学の説明がありました。家に帰ってから調べてみると、私が進みたいと考えているような学科があったので検討してみようかと思いました。

○生命科学の講義をうけました。今回の講義は主に海洋生物についての話でした。講義は90分あって、最初は長いと思っていましたが、思ったよりも話が面白かったので、時間が過ぎるのがあっという間でした。講義で一番印象深い話は、クマノミなどの魚が性転換する理由でした。これまで、なんとなく知識として性転換することしか知りませんでした。講義を受け、そのメカニズムを知って、今までとは違う視点で魚を見ることができました。

